

暑中お見舞い申し上げます！



いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。気がつけば8月。高校2年の息子の夏休みも残すところ1ヶ月を切りました。来年は大学受験。そろそろ、本気モードに突入してほしいところですが、なかなかねえ。親から「勉強しよし！」と言われて「はい。喜んで！」なんて気持ちよくいかないものです(笑)。勉強しないことのリスクは全て自分がかかるからほっといてって理屈なのでしょうが、本当はリスクを取れるだけの力がないから、中学生や高校生は勉強しなきゃいけないんですけどねえ。時々高校の数学や物理、日本史や世界史の歴史でも、「こんなものを覚えて何の役に立つんだよ！」なんて言葉を聞きますが(僕も学生の頃はそう思ってたかも ^^; 反省)、でも、こんなこという子供でも体育の



時間に腕立て伏せや、腹筋をするのに、「こんなことして何のためになるんだよ！」とは言わないんですよ(笑)。運動して鍛える

ことは、身体のため健康のために良いという理解が当然として頭にあるんでしょうね。本当はこれと同じで勉強するということは頭の運動、脳の運動、もちろん勉強して知識が頭に残ればい

いのけど(受験ではこれが重要)、たとえ残ってなくても、その時頭を使っていたこと、脳を鍛えたこと、やりたことがあっても勉強に打ち込んだことで育んだ忍耐力、精神



力、その経験は運動と同じで、後々に役に立つはず。なにせ、力では人間より強く、身体の大きな動物より、力のない人間が一番世界で君臨して



いるのは、頭を使って生きてきたからな訳で、、、だから子々孫々繁栄を繋げるため、僕たちは今まで人間が生きるための武器としてきた頭を鍛えなきゃいけないんだけど、まあ学生時代のことを思い出すと、僕もあまり人のことは言えないので、この話はこのへんでおいときます^^;

さて、先月号のダイエット特集ですが、賛否両論があったようです。否の代表格はうちの奥さんで、「あのね、毎日10キロ走るなんて普通できないのよ。ダイエット特集っていったら、『寝る前5分でOK！誰でも簡単ダイエット』ってな感じじゃなきゃダメなのよー」と一蹴されてしまいました(-_-;)。



では本題に入ります。今月最初の話題は久しぶりに仕事に関係するお話です。「シンククライアント」という言葉を聞いたことはありますか？最近新聞でも登場する言葉です。簡単にいうと古くて新しいパソコンの使い方、これから主流になってくるのではないかなって内容です。

Windows の登場、ハードの価格下落により普及したパソコン。とても便利なものです。

ただ、95→98→Me→XP→7→8と新しいバージョンが出るたびに快適に動かすには高性能のパソコンが必要となります。そこで買い換えるとお金だけの問題ではなく、パソコン毎に必要なソフトやドライバーを



再度インストールしなきゃいけなくなり、結構面倒です。1台だけならともかく、何十台、何百台といったパソコンを使用している事業所ではかなりの手間隙が掛かります。以前ニュースで「東電は今でもマイクロソフトがサポートを終了させたXPを4万8千台使用していて、今後5年間使用を続けると計画です」と報道されていましたが(大丈夫かいなと政府も更新するように求めているそうです^^;)、コスト面もさることながら、入換の作業も煩雑だからといった理由もあるの

でしょうね。そんなパソコン数台程度の零細企業から東電のような何万台もの大企業でも、こういったOSが変更になる度につきまとう、コスト、煩雑な入換作



業、、、これを解消させる方法が前述の「シンククライアント」なのです。古くて新しいというのは、パソコンが普及する前はオフコンの時代でした。この時代に主流とされたシステム構成に戻そうという内容です。オフコンの時代はメインフレームとして大型コンピュータをおいて、全て電算処理はそこで行う仕組みになっていたのです(ハードがとてつもなく高かったの



で)。そして大型コンピュータに繋がる何台もの端末は、結果を画面に映してしているだけで、その端末自体には処理できる能力はないといったシステムだったのです。時代が進みハードが革命的に高性能&安価になり、そのような大型コンピュータに繋げて使うのではなく、端末自体で全て処理できる能力を持つパソコンに変わっていったのです。これはこれで便利になったのですが、そこで出てきた問題が、前述のOSが



変わる毎に発生する全ての端末の煩雑な入換え作業なので

す。全ての端末にエンジンをつけてしまったものだから、全ての端末のメンテが必要になったってことです。しかも、データも全ての端末で持てるようになったものだから、個人情報流出に対するセキュリティー対策も困難になるといった問題もあります。そこで、古くて新しい昔風のシステム構成が「シンククライアント」。大きなサーバーを置いて、OSもアプリケーションもデータもその中で完結させて、そこに繋がっているパソコンにはエンジンを持たせず、データも持たせず、サーバーの中で処理して、その結果を端末に映すといったシステム構成です。これを構築することで、OS変更に伴う端末の煩雑な入換え作業をなくすことを実現し、また個人情報のセキュリティーの向上にも役立つ



とのこと。でも、沢山の端末が繋がるシステムではサーバーのOSだけではパンクするのではと思われるかも知れませんが、数百台くらいまでなら、Windowsはサーバーに入っているひとつのOSで全く問題ないそうです。これらの話は先月、優利会計人グループの勉強会で名古屋のI社の社長から聞いた話です。中小企業でも「シンククライアント」を導入するメリットは大きいと力説する同氏。では何故中小企業でシンククライアントは普及していないのですか？との質問に、「システム関係を事務機屋まかせにしている場合が多いのでその場合には進みにくいでしょうね」とのこと(そりゃパソコン売れなくなるもんね笑)。2020年にはWindows7もサポート終了予定とのこと。うちの事務所も導入を考えてみようと思ってます。

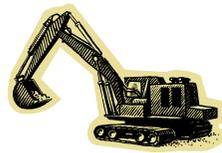
魅力的なアベノミクス大型景気対策税制！

先月号、今月号と2回連続事務所通信に掲載していますが、鳴り物入りで登場しているのが



「生産性向上設備投資促進税制」。太陽光発電で度肝を抜いたのと同じ、初年度100%即時可能な制度です。

一定の金額以上の機械装置、工具器具備品、建物・構築物、建物付属設備、ソフトウェアを購入した際、一定の要件を満たせば購入年度に全額償却OKです。ここで注目すべきは建物関係まで対象となっていること。建物の即時償却というのは僕の記憶の中では初めてです。購入資産についてはA類型B類型に分けて、前者ならば工業会等からの証明書あれば、また後者ならば投資利益率が年平均15%以上(中小企業者等は5%以上)となる投資計画を作成して税理士等の確認を受けた上で、経済産業局の確認を受ければOKです(申請から承認まで1か月くらい)。今期利益が出そうで設備投資の予定もある事業者については、当該税制の適用を検討する価値は十分あると思います。詳しくは事務所通信や同封しました経済産業省のチラシをご覧ください。それとこういったメリットのある税制改正は、営業のツールにもなります。この税制の要件に該当する資産を販売している会社ならば、先ほど言いました経済産業省のチラシをもって、「決算対策にこの制度を活用して100%即時償却をしませんか？」と物販に繋がればいいのです。



実際うちのクライアントがこの法律ができた二日後に、取引のある会社から、「コンボを購入すればこの制度使えますよ」とアナウンスされて、実際にコンボを購入したんです。税制改正の上手な活用方法ですよ。

Facebook で見つけた伝えたい話 11

「人であふれた駐車場」

100mほど離れたところに駐車場があり、そこにいつも車を停めていました。その駐車場には、いつでも元気で明るい、60歳を過ぎたばかりの管理人のおじさんが働いていました。



年齢に似合わずシャキシャキとした行動で、手際よく仕事をこなします。毎日のように顔を合わせていましたが、いつもおじさんは明るい笑顔で挨拶してくれました。「おはようございます！今日も天気で、いい一日ですね！」以前は大手企業で働いていたそうです。その会社を定年になって退社し、家が近くにあるというだけの理由で、駐車場の管理人の仕事をはじめたということでした。ある朝、急に雨が降ってきました。その時、傘を忘れたことに気がつきました。駐車場について、車から出ることもできずに、どうしたものかと考えていたところに、管理人のおじさんが走りよってきました。「傘、忘れたんじゃない？ちょうど、今降り出したばかりだから、これ、持っていきなよ」といって、自分の持っている傘を差しだしてくれたのです。「でも、これっておじさんの傘じゃないの？」



「私のことを気にすることはありませんよ。とにかく持って行ってください」自分の傘をお客さんに渡して、自分は濡れて帰ってもいい。普通はなかなかそんな風を考えることはできないと思います。管理人のおじさんは、いつもこんな調子で自分のことよりもお客さんのことばかり考えてくれるような人でした。その駐車場はいつも満車の状態でした。他の管理人さんは、満車になると小さな管理人室で本を読んだりしていましたが、そのおじさんは、駐車場の前に立って、申

し訳なさそうに、「満車です、申し訳ありません」と深々と頭を下げて謝っているのです。中には、苦言を呈する人もいます。でも、必ずその車が見えなくなるまで、深々と頭を下げ続けていました。「何も、あそこまでしなくてもいいのに…」と書いていました。そんなある日、いつものように車を止めようとしたとき、いつもと違う表情でおじさんはやってきました。



「実は、今週いっぱい仕事をやめることにしました。妻が、肺を患っていて、空気のきれいなところでのんびり暮らすことにしたんですよ。いろいろお世話になりました…」お世話になったのはこっちのほうですよ、と何ともいえず寂しさを覚えました。今日が最後という日、ちょっとした感謝の気持ちで、おじさんにてみやげを持っていくことにしました。そして、駐車場に着いたとき、信じられないような光景を目にしたのです。小さなプレハブの管理人室には、色とりどりの花束がいっぱいに積上げられていて、中がまったく見えません。さらに、管理人室の横には、置ききれなくなったプレゼントがたくさん積み重ねられています。それは2列にもなっています。駐車場は、たくさんの人でごった返し、感謝の声が聴こえてきます。

「いつも傘を貸してくれてありがとう」

「あのとき、重い荷物を運んでくれて助かりました」「おじさんに、挨拶の大切さを教えていただきました」次々と写真を撮り、握手をし



て、感謝の言葉を告げています。最後の列にならんでおじさんと話す機会を持ちました。「おじさんには感謝しています。おかげで、毎日気持ちよく仕事を始めることが出来ました。いなくなってしまうなんて残念です…」

「いいえ、私は何もしていませんよ。私にできることは、挨拶することと謝ることくらいですから。でも、いつも自分がやっている仕事を楽しみたい、そう思っているだけなんです」

仕事が面白いかどうかを、その仕事の内容に期待すると裏切られてしまうでしょう。面白い仕事もつまらない仕事もないからです。つまらない仕事なんてない。仕事に関わる人の姿勢が仕事を面白くしたり、つまらなくしてるに過ぎない。



仕事の最後の日、自分がこれまでどのように仕事に関わってきたかをまわりの人が教えてくれます。その時に得られる最高のもの、それは人と人とのつながりの中でうまれる感動です。

出典元:

(どんな仕事も楽しくなる3つの物語 福島正伸)

<名倉コメント>

昔、子供電話相談室でこんな質問が寄せられていました。小学校5年生の男の子からです。

「好きな女の子ができました。その子に僕のことを好きになってもらいたいのですが、どうすればいいですか？」うーん、僕が回答者ならちょっと考えてしまいますが、そのラジオの回答者は即答でした。「それは簡単ですよ。『大きな挨拶』『いい返事』です」と。やっぱり良好な人間関係の構築の第一歩は『挨拶』なのでしょうね。

前にも言いましたが、「仕事って人を喜ばせてお金を貰うこと」です。一見無味乾燥に思える仕事でも、人に喜ばれることを考えて、自分にできることを実践する。そうすればこの管理人さんの話のようにみんなHappyになれるんですね。あんまり難しく考えず、いい仕事ができるように、

がんばっていきましょうp(^.^)q

